

- sition," *IEEE Trans. Comm.*, COM-27, 113-126 (1979).
- [9] Marshall, K. T., "Some Inequalities in Queueing," *Opns. Res.*, 16, 651-665 (1968).
- [10] Newell, G. F., "Approximations for Superposition Arrival Processes in Queues," *Mgmt. Sci.*, to appear.
- [11] Port, S. C. and C. J. Stone, "Spacing Distribution Associated with a Stationary Random Measure on the Real Line," *Ann. Prob.*, 3, 387-394 (1977).
- [12] Ross, S. M., *Applied Probability Models with Optimization Applications*, Holden-Day, San Francisco, 1970.
- [13] Smith, W. L., "On the Cumulants of Renewal Processes", *Biometrika*, 46, 1-29(1959).
- [14] Whitt, W., "Approximating a Point Process by a Renewal Process, I: Two Basic Methods," *Opns. Res.*, 30, 125-147 (1982).
- [15] Whitt, W., "Refining Diffusion Approximations for Queues," *Opns. Res. Letters*, 1, 165-169 (1982).
- [16] Whitt, W., "The Marshall and Stoyan Bounds for IMRL/G/1 Queues are Tight," *Opns. Res. Letters*, 1, 209-213(1982).
- [17] Whitt, W., "Approximations for Networks of Queues," *Proc. 10th International Teletraffic Congress*, Montreal, 1983.
- [18] Whitt, W., "The Queueing Network Analyzer," *Bell System Tech. J.*, 62, 2779-2815 (1983).
- [19] Whitt, W., "Departures from a Queue with Many Busy Servers," *Math. Opns. Res.* to appear.
- [20] Whitt, W., "Queues with Superposition Arrival Processes in Heavy Traffic," submitted for publication.
- [21] Whitt, W., "Approximations for Departure Processes and Queues in Series," *Nav. Res. Log. Qtr.*, to appear.



ラッセル L. エイコフ著 川瀬武志/辻新六 共訳

問題解決のアート

建帛社 1983年 274頁 3200円

企業がかかえる問題に十分満足できる答を与えるのは、容易なことではない。問題解決にいたるまでの過程は、悩みと苦しみの連続である。けれども問題解決の過程に美と楽しみをとりもどしたい、少なくともそういう考えで問題にとりくんでゆきたい、という姿勢を強調するためにまとめられたのが本書である。より充実した答を得ようと私たちにふるいたたせるもの、そして私たちに感動させるような答に出会うと、それは美しいものと考えるのは問題解決の「アート」の役目なのだ、ということをさまざまな実例によって展開している。

本書は2部より構成されている。第1部は問題解決の基本的な考え方について 目標(望ましい結果)、制御変数(方策)、非制御変数(環境)、およびこれら3つの構成要素間の関係の各項目にわたり、寓話をあげて

説明し、ついでそれから得られる教訓を示す、という形式で著者独自の思想にもとづいた「アート」の意味づけを与えている。第2部は、全米の科学・技術情報システム、都市交通、多次元組織構造、宣伝の効果などの事例について、問題の提起と解決が得られるまでの柔軟な発想による問題への対応過程が述べてある。

第1部は問題解決のとりくみ方の理論編で、第2部は現実問題への適用の実例を紹介する、という構成となっており、手法中心の解説書ではない。この点が本書の特長で、序文にみられるように、長年にわたって問題解決にとりくんだ著者の豊富な経験が語られており、実務家には大へん参考になる。

ただ、評者には読みづらい部分もあったが、全体として楽しく読めるように訳された訳者のご苦勞を多としたい。(村中 聖)